

ぼくの大かんとく

益川ますかわ
将成まさなり

お父さんは帰ってきたらいつもキャッチボールをしてくれる。

お父さんがかまえ、ぼくが投げる。

その連続だ。

お父さんは投げ方も教えてくれる。

フォーク、シュート、カーブ。

お父さんはいつも言う。

「スピードを上げるにはスナップが大切だ。」

だから毎日お風呂でお湯につけながら手首をふっている。

「投げる時には「し」を使え。」

だからふっきんやはいきんをやっている。

「フォームがよくないからコントロールが悪いんだ。」

これが僕が一番の問題だ。

だからボールを持たないで鏡にうつして正しいフォームを覚えるのだ。

お父さんはぼくの野球の大かんとくだ。

小さなばん人

村田 むらた

明日蘭 あすか

体育館の前に、てんとう虫がいた。

つついても、はなれようとしなない。

なにをしても、はなれようとしなない。

休み時間に見にいったら、

また、てんとう虫がいた。

しかも、同じ場所にいた。

一日がすぎた。

二日目に見にいった。

まだ、てんとう虫がいた。

てんとう虫が

体育館のばんをしていた。

三日目には、

てんとう虫がいなかった。

「さようなら。小さなばん人、てんとう虫。」

おじいちゃん

松尾まつお
奈々なな

おじいちゃんは

よくものをこぼす

水や、お米

こぼしたあと

おばあちゃんに

しかられる

おじいちゃんは

ふきんを手に

こぼした水を

ふいている

水をふく

おじいちゃんのせ中が

さびしそうだった

あめ

松田 まつだ
千裕 ちひろ

あめぽっつん あめぽっつん
あっちもこっちも ぽっつんこ
ぼくら うえからぶってきて
したでぽっつん きえちやうよ

あめぽっつん あめぽっつん
あっちもこっちも ぽっつんこ
ぼくら うえからぶってきて
したでぽっつん しずんじゃう

あめぽっつん あめぽっつん
あっちもこっちも ぽっつんこ
ぼくら うえからぶってきて
したでぽっつん はじくんだ

あめぽっつん あめぽっつん
あっちもこっちも ぽっつんこ
ぼくら うえからぶってきて
したでぽっつん みずたまり

和歌山の星空

竹野 たけの
琴音 ことね

和歌山のひいばあちゃん家へいった。
銭湯の帰り、空を見あげた。
オリオン座が見える。

いとこの彩永がけい帯電話で
星空をとろうとしている。
だけど、けい帯電話では、とれないよ。

長太は少しの星しか見えないけれど、
ひいばあちゃん家からは、
はつきり見える。

和歌山の星を見たら
星が数えきれないほどだった。
宝石みたいにキラキラ光っていて、
とってもきれいだった。

夏にまた和歌山の星空が見たい。

5人でいっぱいくらしたい

松原 まつばら

睦 むつみ

ぼくは、ベッキョで、三重へきた

でもベッキョときいたときは、いやだった
ベッキョをしてからちょっとたった

1回お父さんにあいに行った

おとうさんはぜんぜんかわっていなかった
くるときは、たのしかったけど

かえるときになったら

おとうさんとおもいでがあたまをよぎり
かえりたくなった

けど えがおで手をふった

ほんとうは、5人で三重でくらしたい

やっぱじ

おとうさんと5人でくらしたい

マラソン

山口 やまぐち
大輔 だいすけ

マラソンの日、すごくドキドキした。
今日はすごく調子がいい。
一〇位以内を取れそうだ。

走る前、半ズボンになった。
なぜかきんちよう感がなくなった。
スタートの直前
ぜったい一〇位以内を取るぞと思った。

スタートだ。

ぼくはスタートは一位だった。

ずーっと一位だった。

そしてぼくが一番きらいな坂道だ。
となりにはすごく大きい人がいる。
だけどぬかされなかった。
ホッとした。

ゴールは目の前

ラストスパートをかけた。

ぼくは一位だった。

すごくうれしい。

がんばればなんでもできるんだなと思った。
今日は最高の一日だった。

とわ

濱口 翔はまぐち しゅう

ぼくに、おいができたよ。
でも、

おとうとみたいだ。

ぼくが「とわ。」「っっっ」
にこっと笑ってくれる。

とてもかわいい。

ぼくがあやすと

声を出して笑ってくれる。

とてもしあわせな気持ちになる。

ぼくが歩くと

目でおってくれる。

早く大きくなったら

遊んでやりたい。

まってるからね。

年をまたいで

小林 こはやし

拓哉 たくや

大みそかの夜初めてのカウントダウン
すこしずつ時間がすぎる

あと一分

あと十秒

5、4、3、2、1、0

「とり年だー」。

と、妹とはしゃいで言う

いよいよとり年ぼくが生まれ、えとが一周した年
なんとなく、うれしい

今年は、いよいよ最高学年六年生になる年
いままでの思い出を心につかべる
あと少しで六年生だと思つと

気持ちひきしまる

ありがとう「シュポ」

廣田 ひろた
夕飛 ゆうひ

私にはとつてもたよりになる味方がいる

私だけの味方がいる

名前は「シュポ」、私がつけた名前

正体はぜんそくのきゆう入器

毎日薬を飲んでいけるけれど

発作はおこる

だから私のポケットには

いつも「シュポ」がいる

「シュポ」を忘れると不安になる

一息、シュポをすると

苦しいむねがすつとらくなる

私は元気になれる

「シュポ」

いつも助けてくれて

「ありがとう」

これからもよろしくね

雲

田島 たじま
ふう子 ふうこ

雲はゆっくりさんぽする。

わたしは少し雲より速く

さんぽする。

雲を見ると、

死んでしまったおじいちゃんを

思い出す。

たまに考える。

あの雲の上でねているかな。

あの雲の上でさんぽしているのかな。

雲を見ると、

ついついゆっくり歩いてしまっ。

たまに雲は、

おこっつかみなりをおとす。

雨をふらす事もある。

わたしは一番

まっ白なのんびり屋さんの

雲がすき。

もうひとりのわたし

鬼頭きとう くるみ

先週、わたしは十才になった

パチンと音がした

ハウセンカの実がはじけたみたいに

ケーキを食べた

六人で食べた

もうひとりのわたしも食べたがっている

本を読んでいるわたし

どこからか

もうひとりのわたしが見ている

勉強しているわたし

どこからか

もうひとりのわたしが見ている

「そうそう、その調子、がんばって

とはげましてくれている

もひとりのわたしに

わたしから

「おたんじょう日 おめでとう」

ハヤブサ

ふなたに
船谷 哲平

ハヤブサになって地上を見下したい

どんなのかわからないからなあー

ハヤブサになってつばさをとじて落ちたい

こわそうだからおもしろそうだなあー

ハヤブサになって雲に当たりたい

雲は氷のつぶだからどんだけつめたいかなー

ハヤブサになってふじ山を見下したい

ふじ山は上からみたらどんなかなー

ハヤブサになって巣を作りたい

ハヤブサになって海をわたりたい

ハヤブサになって森を見たい

ハヤブサになってむれで行動したい

ハヤブサになって自由になりたい

ハヤブサになってハトなどを食べたい

ハヤブサになって人をおどろかせたい

ハヤブサになって雲の上へ行きたい

ハヤブサになって雪の中をとびたい

ハヤブサになってホワイトハウスを見たい

おじいちゃんの入院

足立 あだち
爽紀 さき

おじいちゃんは、

九月ごろは元気でした。

十月二十三日ぐらいになったら

おじいちゃんが入院に

なつてから

手紙をわたすように

なりました。

それから、土曜日と日曜は、

わたしが、おじいちゃんの所に、

行つて手紙を

わたしたりしています。

おじいちゃんは、わたしが、

あげた手紙は、

お母さんとおねえちゃんとおばあちゃん

とわたしが、帰つて、

一人になつた時に

わたしがあげた手紙を

見えています。

わたしは、いつも

おじいちゃんが、

早く元気になつて

ほしいなと思っています。

メダカ

打田 うちだ

健太 けんた

川にいったらメダカがいた

すいすいすいすい泳いでいる

たもですくってつかまえた

手でもったら

にゆるっとしていて

とんでった

川におちてまた

すいすいすいすい泳いでいく